

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	筑波大学	整 理 番 号	1804
プログラム名 称	ヒューマニクス学位プログラム		
プログラム責任者	加藤 光保	プログラムコーディネーター	柳沢 正史
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・104名のメンター教員（学外教員24名を含む）による生命医科学分野と理・工・情報学分野の共同体制のもとで、完全ダブルメンター制及びリバーズメンター制により卓越人材の育成が着実に進められている。 ・査読付き原著論文21件など履修学生の研究成果が順調に現れてきており、学会等での優秀発表賞を12件受賞するなど、履修学生に対する社会的評価も高い。 ・研究室での指導は、ほぼ100%英語環境で行われており、本プログラムの修了生が高度な「知のプロフェッショナル」として国際的に活躍することが十分期待できる。 ・新たな入学者選抜方式として、口述試験Ⅰ（生命医科学分野と理・工・情報学分野の専門知識を問う口頭試問）、口述試験Ⅱ（生命医科学分野と理・工・情報学分野を融合した研究提案を英語で記載した研究計画書を異なる専門分野の教員が評価する口述試験）が導入され、優秀な学生の獲得に向けた入学者選抜が着実に実施されている。 ・令和2年4月に設置された教学マネジメント室を中心に、すべての学位プログラムのモニタリングとプログラムレビューの実施など、学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていく取り組みが着実に進められている。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <p>令和2年度から、8研究科85専攻を3学術院6研究群56学位プログラムに改編し、学位プログラム制に全面移行するなど、大学院全体の大きな改革が着実に進められている。これにより、従来の専攻の壁を取り払い、博士課程リーディングプログラム、卓越大学院プログラムの実績を活かし、分野を超えた研究指導体制を実現するなど、大学院教育改革の優れた成果が現れている。分野を超えた学位プログラムが複数計画されており、第4期の新しい学術院の設置につなげる構想に向け、今後も順調に大学院全体の改革が進められていくことが期待される。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-learningを活用した授業が実施されているが、留学生教育に効果的な理・工・情報学分野の英語によるe-learningコンテンツのさらなる充実を期待したい。 ・全ての学生に対して達成度と学習目標の見える化を図るために、令和3年度より運用開始しているポートフォリオ型達成度評価システム（CPx）について、効果が現れているものの、一部学生からは、使いにくい、分かりにくいなどの意見が出されており、より効果を高める運用を期待したい。 ・1年次のカリキュラムが膨大且つ複雑で履修計画を立てるのに苦労した学生もいることから、履修計画に対するサポート体制の充実を期待したい。 ・コロナ禍の影響で使われない海外渡航費を消耗品の購入等に使えるような運用がとられているが、学生の研究遂行に効果的な物品の購入に使えない場合もあり、可能であれば改善を検討してほしい。 			